

地方公務員も給与減

財務省 国と同調 要請へ

財務省は、総務省を通じて方針を決めた。

都道府県などに対しても、東日本大震災の復興財源地方公務員の給与削減を求めるため、国家公務員

【ラスパイレス指数】一般行政職の地方公務員と、行政職の国家公務員の給与水準を比較するための指標。給与総額を単純比較するのではなく、学歴、経験年数なども加味して算出する。かつては100を超える自治体も多かったが、2004年以降は全体平均で100を下回る水準で推移していた。

員の給与を削減した結果、地方公務員の給与水準が国家公務員に比べて、相対的に高止まりしている。このため、財務省は、消費税増税への国民の理解を得るために、財務省は、消費税増税への國と地方が足並みをそろえて財政再建に取り組む姿勢を示す必要があると判断した。

国家公務員の給与水準を100とした指數（ラスパイレス指数）で、地方公務員の水準は昨年4月現在、98.9だった。ところが、国家公務員の給与が2012年度から2年間、平均7.8%カットされた結果、地方公務員の指數は約107に上昇した。

公立小中学校の教職員や警察職員らも含めた地方公務員の給与関係費は約2兆円で、地方の歳出総額の約4分の1を占める。地方財政の不足分は国と地方が折半して穴埋めしていく。

財務省の試算によると、地方公務員の給与も、国家公務員並みに減らせれば、給与関係費を年約1.2兆円削減できるという。消費税増税により地方に配分される財源も増えるだけに、財務省は「地方自治体も身を削る姿勢を示すべき」（主計局）と、自主的な給与削減を求めている。

地方公務員の給与削減には、条例改正など議会の手続きが必要となるが、財務省は速やかな対応を求めており、12年度補正予算や13年度予算編成などで、地方公務員の人事費削減により地方への支出を減らしたい考えだ。